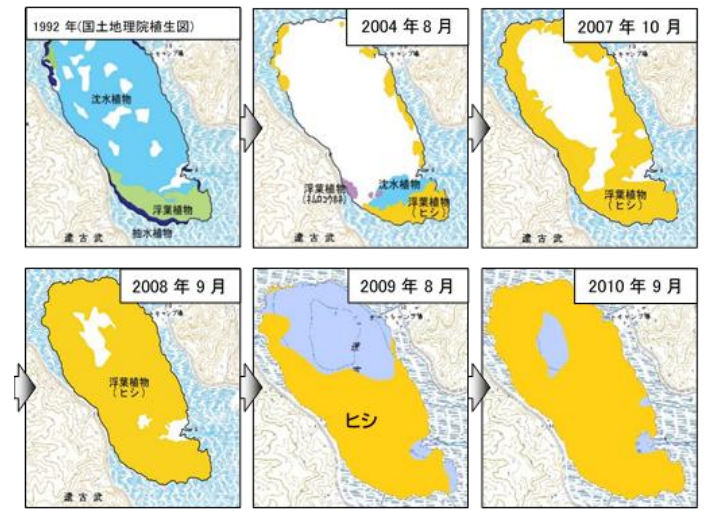


達古武湖 ヒシ刈りマニユアル

概要版

ヒシ刈りの背景・目標

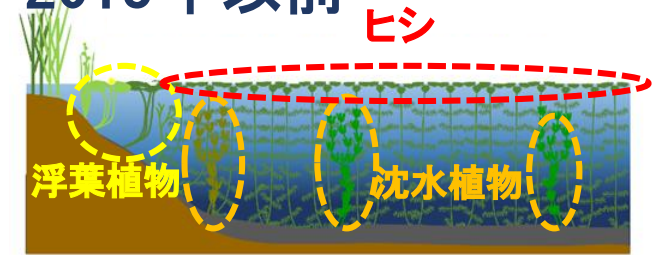
- 達古武湖は釧路湿原東部の釧路町に位置する湖沼。かつては多様な水生植物が生育していた。
- 2000年以降、栄養塩類の流入に伴う富栄養化で環境が悪化、2006年ごろからヒシが急激に分布を広げ、湖の生物多様性が著しく低下。
- 11年にわたりヒシ以外の水生植物が生育する空間を確保することを目的としたヒシ刈りを実施。水生植物の生育状況は回復しつつあった。
- 途中でヒシ刈りをやめてしまうと再びヒシが増え、元の状態に戻ってしまう。



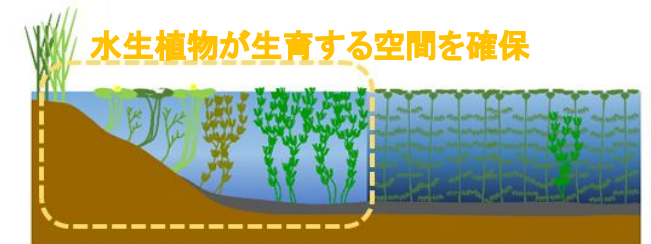
水生植物※の確認種数は事業開始前までに**4割以下**に
1991年 24種→2012年 9種

※ウキゴケ類（苔類）やシャジクモ類（藻類）を含む

2013年以前



2023年



今後も達古武湖でヒシ刈り続ける一番の目標は、
長年ヒシ刈りを継続して確保してきた、
水生植物が生育する空間を維持すること

準備と作業の流れ

- ① 道具や飲み物を持って船に乗り、ヒシ刈りをおこなうエリアに向かう。ヒシを積むためのカヌーも持っていく。
- ② ヒシ刈りを実施。刈り取ったヒシがたまってきたらキャンプ場へ持っていき、陸揚げ。
- ③ ヒシ刈り終了後、片付けをおこない、ヒシをトラックに積み込み、処分場へ。

(釧路広域連合清掃工場で10kgあたり84円で処分できます)

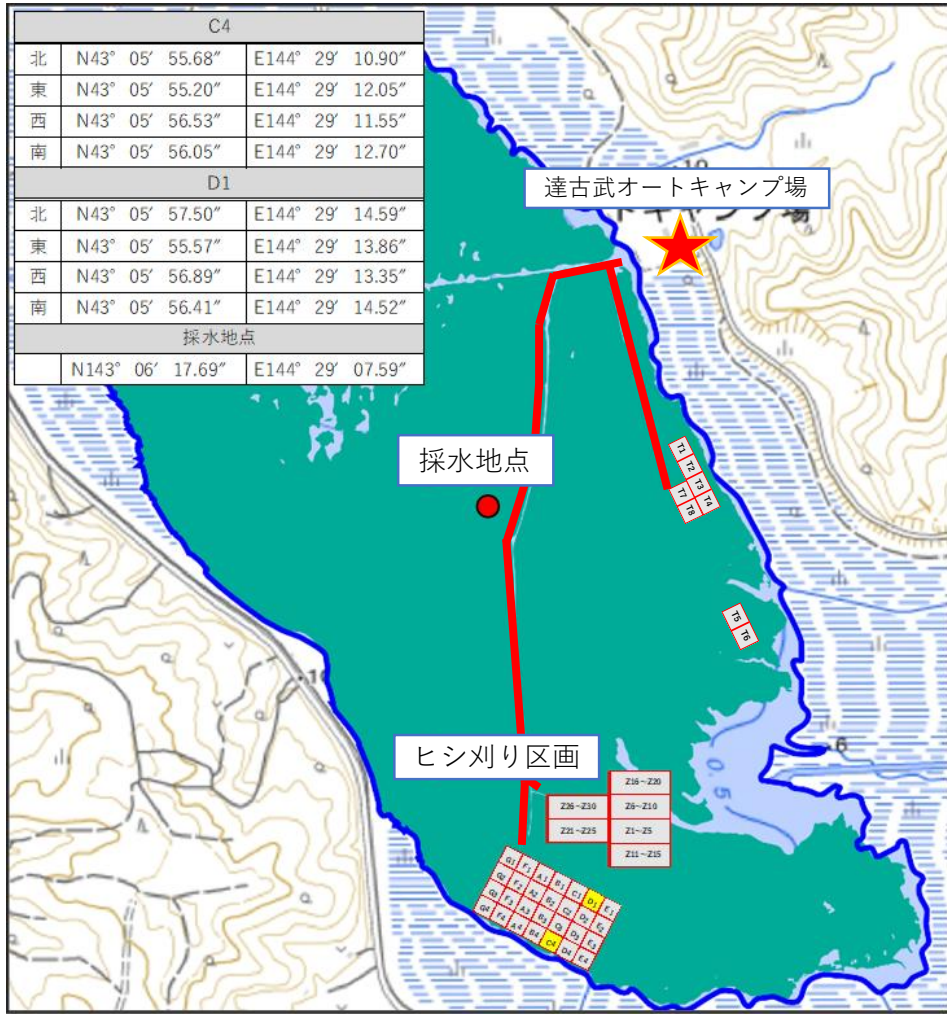


必要なもののリスト

手刈り		ワイヤー刈り	
必要なもの		必要なもの	
☐	カヌー	☐	ワイヤー刈り装置
☐	動力船 (小型船舶免許)	☐	動力船 (小型船舶免許)
☐	ヒシを積んでおくためのカヌー	☐	ヒシを積んでおくためのカヌー
☐	鎌・熊手	☐	鎌・熊手
☐	ライフジャケット・手袋・長靴	☐	ライフジャケット・手袋・長靴
☐	軽トラック等	☐	軽トラック等
☐	荷下ろし用のカゴ	☐	荷下ろし用のカゴ
あると便利なもの		あると便利なもの	
☐	船外機付きゴムボート	☐	船外機付きゴムボート

悪天候はもちろんのこと、強風にも注意。風が強いと操船が不能になり、転覆のリスクも増します。周りが山に囲まれている場合は出発時に風に気づかないこともあるため、必ず木の揺れや波、予報などを確認し、風速が10m/sを超えるようであれば作業を中止してください。

日陰が無く、気温も高くなりやすいので熱中症に注意。帽子を被り、飲み物や塩分も忘れないようにしてください。

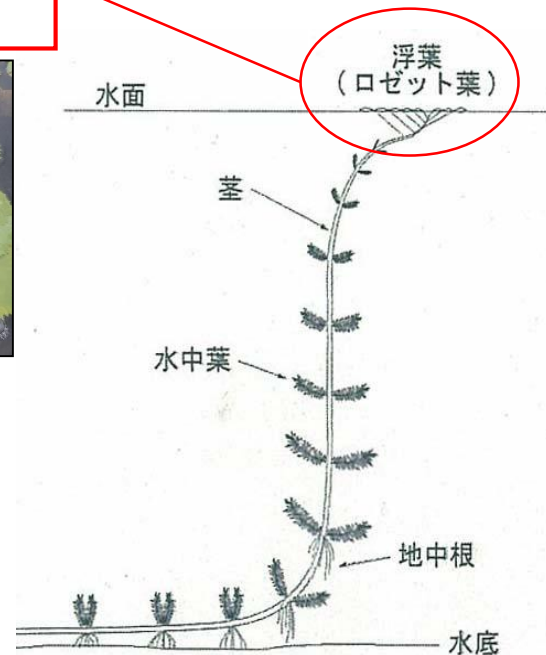
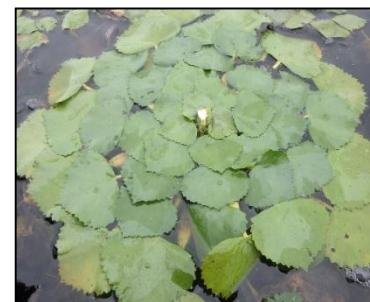


手刈り

- ① カヌー1隻あたりに1～2人乗り、手作業でヒシを刈り取ります。
- ② 刈り取ったヒシは湖岸まで運びます。ヒシ刈りを実施するエリアとカヌーポート（船着き場）まで距離があるため、刈り取るチームとヒシを陸揚げするチームでわかれて作業をすると効率的です。



この部分を刈り取ります。



ヒシの実のトゲで手をケガしないように注意。

ワイヤー刈り

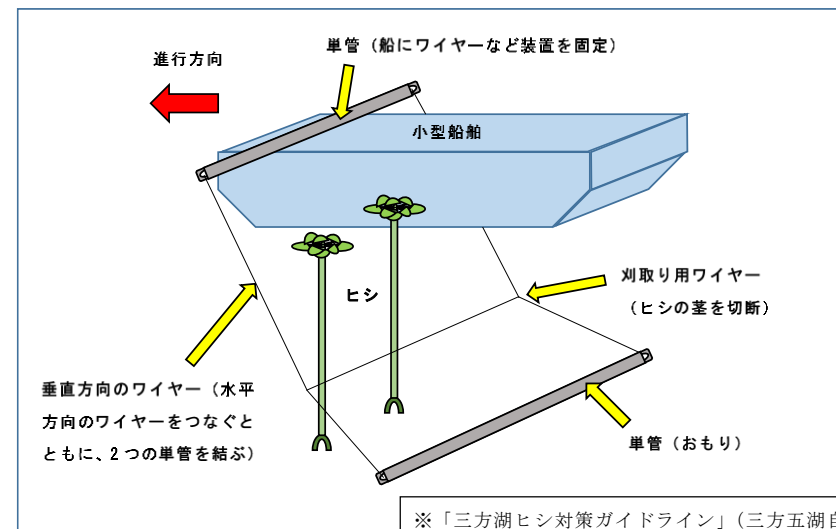
- ① ワイヤー刈り装置の上の短い単管を、動力船の舳先側にロープ等で固定します。
- ② ヒシ刈りを実施するエリアに移動します。船には、操船者のほかにもう1～2人作業できる人が必要です。
- ③ 下の長い単管を水中に沈めて動力船を進め、単管の間の水平方向のワイヤーでヒシを刈り取っていきます。船の速度が速いと単管が浮いて刈り取り効果が薄れてしまうので、注意が必要です。
- ④ しばらく続けていると、単管やワイヤーにヒシが絡まって浮力で浮いてくるので、その都度ヒシを船上に回収します。また、動力船のスクリュー部分にもヒシが絡まってしまうので、都度取り除いてください。
- ⑤ 刈り取ったヒシはすべて回収し、陸揚げします。刈り取ったヒシは一時的にカヌーに積んでおくのが効率的です。



場所によっては定置網などの漁具が設置されていることや、ゴミや流木が多いこともあるので、特にワイヤー刈りを実施する際は十分に気を付けてください。



単管やスクリューにヒシが絡まってしまうので、都度取り除いてください。



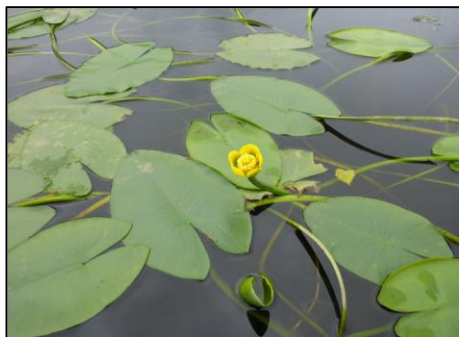
※「三方湖ヒシ対策ガイドライン」(三方五湖自然再生協議会外来生物対策部会 2016) を参考

達古武湖で確認できる水生植物

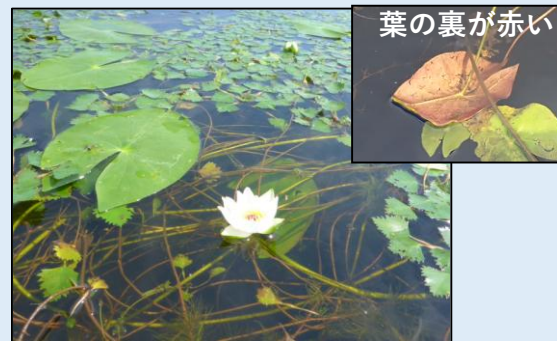
フラスコモ属の一種



ネムロコウホネ



ヒツジグサ



ヒンジモ



マツモ



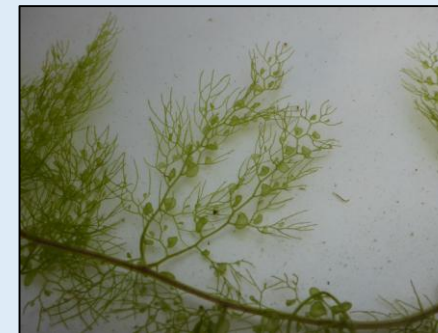
ホザキノフサモ



フサモ



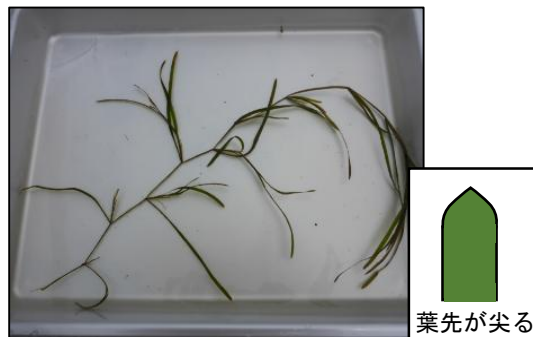
タヌキモ



クロモ



エゾヤナギモ



センニンモ



ヒロハノエビモ

